

## 実践報告

# 地域子育て支援活動「子どもミュージアム」における取り組み —平成29年度の実践報告—

西村侑香里・松本麻希・田中麻里

(西九州大学子ども学部子ども学科)

(平成31年1月7日受理)

## Efforts in Community Childcare Support Activity, “Children’s Museum”: 2017 Practice Report

Yukari NISHIMURA, Maki MATHUMOTO, Mari TANAKA

(*Department of Children’s Studies, Faculty of Children’s, Nishikyushu University*)

(Accepted January 7, 2019)

### Abstract

The “Children’s Museum,” a regional child rearing support program at our university, has been implemented since Academic Year2009, when the Faculty of Children’s Studies was established, and it will be entering its ninth year in AY2017.

The unifying theme is the “creation of children’s culture”; the “Museum” provides an environment and play activities that include the elements required for children’s growth, such as physical play, singing, storytelling, science, and activities that bring us into contact with the nature around us. All these can be experienced in a context of interpersonal connections. Twelve meetings were held in AY2017, with a total of131households (261people) participating. Thirty-five percent of participants indicated “satisfied” for the activities they participated in, with60%indicating “very satisfied”.

This paper reports the outcomes and future direction of program activities, based on the overview and program performance records of the AY2017” Children’s Museum,” and the data from the follow-up questionnaire targeting parents and elementary school students.

Key words : Community Childcare support activities 地域子育て支援活動  
Childcare Professional and Educator Training 保育者・教育者養成  
Parent and child 親子

## 1. はじめに

西九州大学子ども学部子ども学科における地域子育て支援活動「子どもミュージアム」は、子ども学部新設の平成21年度から始まり、平成29年度で9年目を迎える。活動当初から今日まで、「子育て・子育てのための地域支援活動」、「地域に開かれた大学づくり」、「保育・教育者を志す学生の実践活動」の3つを目的とし実施している<sup>1)</sup>。

また、本事業の活動テーマとして「子ども文化の創造」を掲げており、身体遊び、歌遊び、おはなし、科学、身近な自然にふれる活動など、子どもの成長に必要なものを、人と人との繋がりの中で体験できる遊びや環境を提供している。

本事業は、子ども学科の授業の一環で、学生が中心となって企画・運営を行っている。将来子ども達を保育・教育する専門職業人として、実践的な活動を通して、実践力や展開力の育成だけでなく、子どもに限らず“親—子”を支援する子育て支援の必要性を感じ、子ども同士の関わり、親同士の関わりを繋いでいく重要な役割を果たしていることを実感できる活動の実践を目指している。

本稿では、平成29年度の活動内容及び活動実績、そして活動後のアンケート結果（保護者、小学生）を踏まえ、成果や今後の方向性等について報告する。

## 2. 活動の概要

### 1) 活動運営

平成29年度子ども学部子ども学科3年生の開講科目である「子ども学演習」と子ども学科4年生の「子育て支援」の講義内で実施した。3年生79名と4年生8名の計87名が運営に携わり、活動の企画・立案を行い、準備から当日の運営まで学生が主となり活動を開催した。

開催日によって準備に取り組む時期は異なるが、学生は約1か月前より当日のプログラムや活動で使用する小物やプレゼント、壁面等の準備に取り掛かる。開催の約2週間前に当日を想定したりハーサルを行い、指導教員の助言を得て本番へ向けて練習を重ねる。開催前日および活動終了後は、衛生面や安全面に配慮しながら、使用教室の清掃を行っている<sup>2)</sup>。

### 2) 開催スケジュール

本活動は、乳児から小学生までとその保護者を主な参加対象としており、開催曜日・時間は、「①木曜開催／11：00～12：00」と「②土曜開催／10：30～11：45」を設定している。

木曜開催時には、子どもミュージアムの活動プログラム終了後から14時までの間、「子育て支援室」と「保育演習室」の2室を自由開放している。活動終了後には、室内に設置している遊具や絵本で遊ん

Table. 1 活動スケジュール

【リハーサル】（※主に開催1週間前の講義内にて実施）

	学生の動き
10：30～11：00	打合せ（役割決め・清掃方法・スケジュール等）
11：00～12：00	リハーサル

【開催前日】

木曜日開催の場合	土曜日開催の場合	学生の動き
水曜日16：20～	金曜日17：50～	使用教室の掃除 会場案内等の掲示 活動の準備（壁面・使用道具等の搬入）

【開催当日】

木曜日開催	土曜日開催	活動スケジュール	学生の動き
10：15～	9：30～	受付開始	環境設定 受付・駐車場・会場の誘導
11：00～12：00	10：30～11：45	子どもミュージアム開催	活動プログラムの実施
12：00～14：00 14：00～	— 11：45～	アンケート記入 施設開放（木曜日のみ）	後片づけ・掃除

だり、親子で一緒に遊ぶ姿が見受けられた。また、保育演習室には、子ども用の低い机や椅子があり、飲食可能なスペースも設けられている。親子や友人と一緒に、持参したお弁当や学食を購入手、親子の交流だけでなく、保護者同士の交流や情報交換をしたりと、保護者の憩い・交流の場としても利用されていることがうかがえる。本活動のスケジュールは、Table. 1 の通りである。



Figure. 1 表現スタジオ

### 3) 開催場所

本学佐賀キャンパス3号館1階にある「表現スタジオ」「子育て支援室」「保育演習室」の3室を主な開催場所とした (Figure. 1～3)。子育て支援室と保育演習室には、活動の前後に自由に使用できる遊具、絵本、ベビーベッド(2台)、授乳室、幼児用トイレ、おむつ交換台、飲食可能なスペースが設けられている。



Figure. 2 子育て支援室



Figure. 3 保育演習室



Figure. 4 - 1 学外企画「佐賀を知ろう」



Figure. 4 - 2 学外企画「子どものヒヤリハット対策 みんなで挑戦してみよう！」

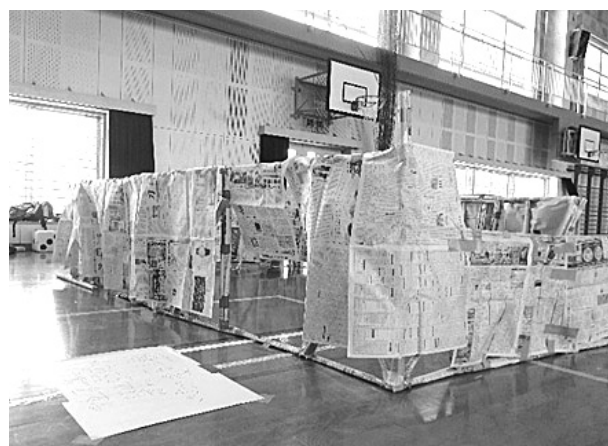






Figure. 5 「夏休み最後に OGI（を・で）学ぼう」



Figure. 6 「わくわくあそびランド in OGI」

また、活動内容に応じて「理化学実験室」や「美術工芸室」、「体育館」を使用して活動を実施した。

学内における開催だけでなく、“学外企画”として、体験学習施設（佐野常民記念館<sup>注1)</sup>で開催したり、大学近隣地区の青少年育成事業団体（放課後子ども教室）と連携・協同して開催した。（Figure. 4-1, 4-2）。

さらに、平成29年度は（平成28年1月にオープンした）本学のサテライト教室がある「小城市まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城」においても、8月と11月に活動を実施した。（Figure. 5・6）。

#### 4) 参加募集方法について

募集方法は、年間スケジュールを記載したチラシを作成し、本学近郊の小学校や公民館、附属の幼稚園・保育園に配布したり、昨年度までの「子どもミュージアム」参加者に郵送した。さらに、校内に設置しているラックにチラシを設置したり、学内のホームページに開催情報を掲載し募集を行った。

### 3. 活動実績（平成29年度）

#### 1) 参加者実績

平成29年度は、通算59世帯の申込みがあり、うち36世帯が新規参加であった。その他は、以前参加したことのある方々からの申込みであった。

〔平成29年度実績：継続23世帯、新規参加36世帯〕（Table. 2）。

Table. 2 参加申込の状況

	平成28年度	平成29年度
参加世帯数	83	59
（内訳）継続	30 (36.1%)	23 (39.%)
新規	53 (63.9%)	36 (61.%)

実数は世帯数を標記

#### 2) プログラム内容と参加実績

平成29年度は、年間12回の開催（平日開催5回／土曜開催7回／うち4回は学外企画）を行い、延べ131世帯（261名：大人100名、子ども161名）の参加があった。

Table. 3 子どもミュージアムのプログラム内容と参加実績（平成29年度）

		開催日	曜日	内 容	担 当	参加世帯数	参加人数	大人	参加学生数
(学外企画)	第1回	5月27日	土	子どものヒヤリハット対策みんなで挑戦してみよう！	赤星	40世帯	43名	3名	9名
	第2回	6月15日	木	音楽であそぼう	櫻井琴	18世帯	39名	19名	9名
	第3回	6月29日	木	「絵本」に触れる「絵本」と触れ合う	高尾	14世帯	30名	14名	4名
	第4回	7月27日	木	わくわくあそびランド	田中	24世帯	61名	26名	10名
(学外企画)	第5回	8月26日	土	夏休み最後に OGI（を・で）学ぼう	松井	2世帯	5名	1名	8名
	第6回	9月30日	土	体を遊ぼう	松本	8世帯	26名	9名	11名
	第7回	10月12日	木	みんなで楽しく遊ぼう	櫻井京	13世帯	26名	14名	7名
	第8回	10月14日	土	植物の色で遊ぼう	飯盛	2世帯	5名	2名	4名
(学外企画)	第9回	10月21日	土	佐賀を知ろう	山田	1世帯	3名	1名	5名
(学外企画)	第10回	11月30日	木	わくわくあそびランド inOGI	田中	6世帯	15名	8名	8名
	第11回	12月2日	土	ダンボールで遊ぼう	高石	2世帯	6名	2名	7名
	第12回	1月20日	土	地域に伝わるお話を楽しもう	岩根	1世帯	2名	1名	5名
						合計	131世帯	261名	100名

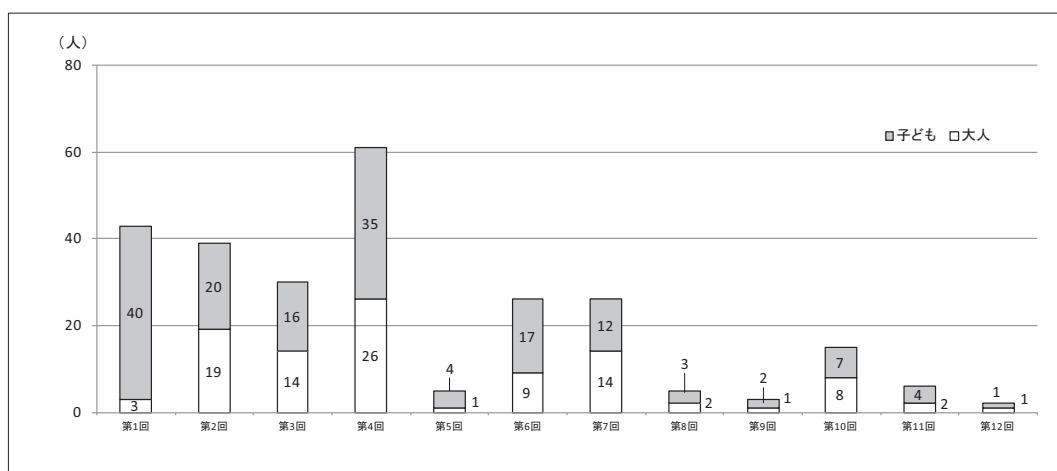


Figure. 7 各回別の参加実績

各回のプログラム内容及び参加実績を、Table. 3、Figure. 7に示す。

#### 4. 参加者アンケートについて

本活動では、活動終了後に参加者（保護者と小学生以上の子供）を対象に、プログラムへの参加動機や活動に参加するの所感や満足度、今後の活動への要望等を記述するアンケートを実施している（Table. 4, 5）。

Table. 4 保護者対象アンケートの質問項目

項目1：保護者の基本情報 (性別, 年齢, 勤務状況)
項目2：参加歴
項目3：活動参加の動機
項目4：活動内容への満足度および感想〔自由記述〕
項目5：活動に参加しての所感（子ども・保護者） 〔自由記述〕
項目6：今後の参加希望
項目7：活動への要望・期待〔自由記述〕

Table. 5 子ども対象アンケートの質問項目

項目1：お子さんの基本情報 (性別, 小学校名, 学年)
項目2：参加歴
項目3：活動参加の動機
項目4：活動内容への満足度および感想・要望 〔自由記述〕
項目5：今後の参加希望

#### 1) 保護者アンケートの結果

##### ① 保護者の基本情報（年齢・勤務形態）

参加した保護者のうち、「30歳～34歳(34%)」、「35歳～39歳(36%)」が3分の2を占めており、最も多かった。参加者の中には、母親との参加だけでなく、夫婦揃って参加する家族や祖父母、保護者同士の誘い合わせによって参加する家族もあった。

勤務形態については、「働いていない」が55%と半数を占めており、次いで「常勤〔育休含〕」

(26%)」,「パート(11%)」,「その他(8%)」となっていた。

## ② 参加歴

参加歴については,「はじめて」が43%と最も多く,次いで「4回以上(27%)」,「2回目(21%)」,「3回目(9%)」となっており,“新規参加者”と“リピーター”といった二極化したメンバー構成になっていたことがうかがえた。(Figure. 8)

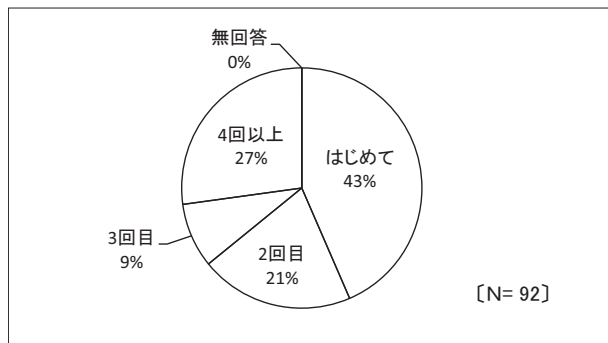


Figure. 8 参加歴

## ③ 活動参加の動機

参加動機として,最も多くを占めていた項目に「子どもが喜びそう」が挙げられ,92名中67名[72%]の回答があった。次いで,「内容に興味があった」が52名[56%],「育児に役立ちそう」18名[19%]であった。参加動機の順位を昨年度と比較してみると,「子どもが喜びそう」に次いで「内容に興味があった」は昨年度同様の結果であった。しかし,昨年度第3番目に多かった「友人の誘い」にかわり,今年度は「育児に役立ちそう」という結果であった(Figure. 9)。

3分の2以上の保護者が参加動機として「子どもが喜びそう」と回答しており,その背景には,“遊びを通した子ども同士,親同士,親子,学生(支援者)との繋がり”や“様々な体験(普段自宅ではできない)”を体得できる機会にしたいという保護者としての思いが存在していることが推測できる。

小島(2009)は,「子育ての中心は,特別な場合を除いて親が行うことが多い。しかし,親とのかかわりだけでは,経験が偏ったり,経験不足になったりすることもある。そこを補うのが,親子を取り巻く周りのいろいろな大人ではないだろうか。子どもの成長過程の中で,親(家族)でも,先生でもない大人という存在は,人

間関係を学んだりするために大きな役割を果たすだろう」<sup>3)</sup>と述べている。

このようなことから,子どもへの育児に興味・関心や熱意がある親が,子どもの成長に必要な体験をしてほしいとの思いから,本活動に参加していることがうかがえる。

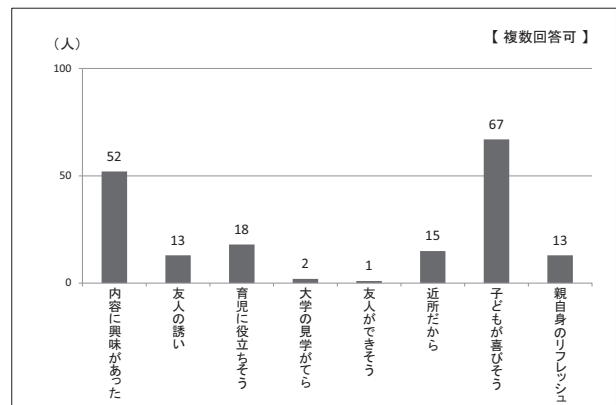


Figure. 9 参加動機

## ④ 活動内容の満足度

活動に参加しての満足度について,4段階評定[非常に満足した・満足・やや物足りない・物足りない]で回答を求めた。その結果,「非常に満足」が60%,次いで「満足」が35%という結果が得られた。このことから,本活動に参加した保護者の9割以上が満足感を抱いていることが明らかになった。保護者アンケートの自由記述(活動の所感)からは,「子どもと一緒に楽しい時間を過ごせて,笑顔をたくさん見れて嬉しかった」,「普段と違う環境での様子や子どもとゆっくり過ごせてよかった」,「子どもとの遊び方の勉強になりました」という回答が多数あり,本活動が子どもと関わるための貴重な機会となっていることが推測できる。また,「リフレッシュできた」との回答も多数あり,親の気分転換にもなっていることがうかがえる。

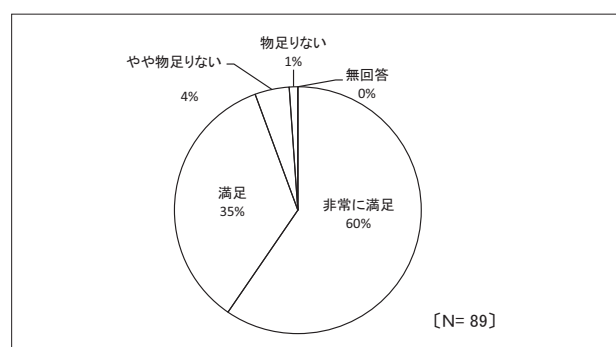


Figure. 10 活動内容への満足度



一方で、「やや物足りない」4%、「物足りない」1%との回答もあり、対象年齢に応じた活動内容の熟考や環境設定、臨機応変な対応を行うなど、ニーズに応じた活動を提供することができるよう改善していく必要があると考える（Figure. 10）。

以下、活動に参加しての保護者の感想〔自由記述〕を一部抜粋して表記する（Table. 6）。

Table. 6 活動内容に対する感想〔自由記述〕

<p>【活動に参加しての感想】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な歌や手遊び等を体験できて、子どもと一緒に遊ぶ時に役立ちそうと思いました</li> <li>・絵本を読み聞かせるだけでなく、体験と結びつけると、より深めることができると勉強になりました</li> <li>・色水がクエン酸や重曹につけると変わることにはびっくり！！家でもしてみたいです</li> <li>・室内遊びのヒントを学べた</li> <li>・一緒にダンスをしたり、とても楽しい体験でした</li> <li>・子ども二人だと遊ぶことも偏りがちなので、みんなで楽しく遊べてよかったです</li> <li>・子どもが楽しんできたことと、子どもとの楽しい時間が過ごせました</li> </ul>
---

#### ⑤ 今後の活動への参加希望

今後の活動への参加希望について、3段階評定〔是非参加したい・機会があれば参加したい・参加したくない〕で回答を求めた。最も多かったのは、「是非参加したい」で79%であり、次いで「機会があれば参加したい（21%）」となっていた。本結果より、活動に参加した保護者の多くが、本活動への参加が“子ども―保護者”にとって、親子の交流を深める有意義な時間となっているだけではなく、遊びを通じた交流の場になっていることがうかがえる。また、活動で実施した遊びを通して、“遊びを通じた子どもとの関わり方”を保護者が理解している様子もうかがえ、子どもと関わるための貴重な

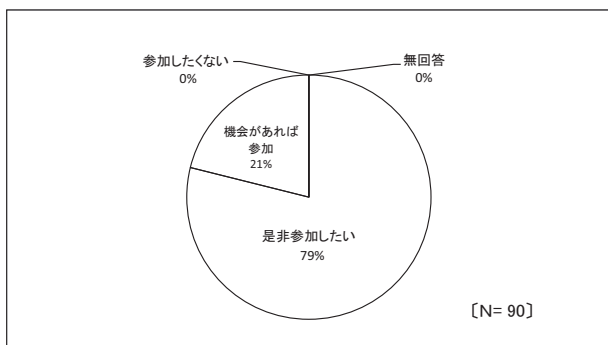


Figure. 11 今後の活動への参加希望

機会となっていることが推測できる（Figure. 11）。

#### ⑥ 企画して欲しい講座・要望

今後、企画して欲しい講座・要望〔自由記述〕としては、楽器遊びや音楽とふれあえる講座、ダンス、体を動かす活動等の要望があった。他にも、人形劇や大型絵本、パネルシアター等を実施してほしいとの要望もあった。

さらに、活動実施にあたっての要望として、「乳幼児向けの講座を年間で増やしてほしい」や「夏休みの時期に施設を開放してほしい」、「何かを作ったり、思いっきり遊べるようなことをしてほしい」等の意見もあった。このようなことから、保護者と子どもが各々に楽しむのではなく、遊びを通して“親子で一緒に楽しく遊べる活動”や“家庭ではできないような体験活動”を保護者は望んでいることがうかがえた（Table. 7）。

有川（2017）は、『「親子で一緒に活動してあそぶ」という要素を提供する内容を取り込むことで、保護者と子どもが別々に楽しむのではなく、親子が一緒に楽しむ状況が生まれ、楽しさという「価値」を「共有」することが可能になると思われる。そんな機会を提供することこそが私たちが取り組んでいる子育て支援活動の醍醐味だと考えている』<sup>4)</sup>と述べている。

参加者のアンケート結果から見てくる参加動機の背景やニーズを踏まえて、活動を立案・運営していくことが必要であると考えます。

Table. 7 企画してほしい講座・要望〔自由記述〕

<p>【企画してほしい講座】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型絵本・パネルシアター</li> <li>・楽器演奏</li> <li>・歯磨き講座</li> <li>・リズム遊び</li> <li>・人形劇</li> <li>・体を動かす活動</li> <li>・ダンス</li> </ul>
<p>【要望】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児向けの講座を年間で増やしてほしい</li> <li>・夏休みの時期、もっと開放してもらえると嬉しい</li> </ul>

## 2) 子ども対象のアンケート結果

平成29年度は、161名の参加者（保護者を除く）のうち57名が小学生以上のお子さんであった。小学

生以上の参加者を対象に実施したアンケート結果を以下に示す。

#### ① 活動参加の動機

活動参加の動機として、「おもしろそうだったから」が最も多く44名が回答していた。次いで、「おうちの人が申込みをしていたから〔11名〕」、「友達の誘い〔5名〕」、「大学生に会いたかったから〔2名〕」であった。今後も引き続き、小学生が「楽しそう」、「参加してみたい」と思えるような活動内容を企画し、参加しやすい日程を調整するなどの工夫が必要である。

#### ② 活動内容の満足度

参加した子ども（小学生以上）57名のうち、51名が「とても楽しかった」と回答し、次いで「まあまあ楽しかった」が5名、「無回答」が1名であった。アンケートに回答した子どものうち約9割が本活動に参加して何らかの満足感を得ていたことが明らかとなった。

#### ③ 今後の活動への参加希望

今後の活動への参加希望として、「参加したい」が52名、「無回答」が5名との結果であった。この結果から、参加した子どもの大半が「楽しかった」「面白かった」「また参加したい」という所感を得ており、子ども達にとって、本活動が充実した楽しい時間となっていたことが示唆された。

## 5. おわりに

本稿では、地域における子育て支援活動「平成29年度子どもミュージアム」での活動内容と実績について報告した。

子育て支援において求められるニーズが多様化するなか、子どもだけでなく、保護者への対応は年々重要性を増してきている。現代では、核家族化も増え、子育てに不安を抱える親も多く、近年、地域社会における相互交流は疎遠になり、本来、社会的な営みとして行われるべき「子育て」が、母親（保護者）の手に委ねられつつあり、近隣からの子育ての情報や援助が得られにくい社会へと変容してきていることも指摘されている<sup>5)</sup>。

このような背景からも、参加者のニーズに耳を傾け、学生が立案から運営までを可能な範囲で、子ども・親（保護者）の支援に取り組む活動として、地域に根付けよう実践の在り方を検討していきたい

と考える。

また、本活動が子どもの“遊び場”だけでなく、親子の“交流の場”や親同士の“交流の場”として、子育てに関する情報交換や共有ができる場所として機能できるように、参加者の求める子育て支援や期待感についても検討し、子どもや親だけでなく、学生にとっても“親-子”学びの場となるよう活動の目的を再確認し、今後も取り組んでいきたいと考える。

## 注

- 1) 佐野記念公園は、佐野常民の偉業を顕彰し、「博愛精神」を学んでいく佐野常民記念館（体験学習施設）と、日本近代科学技術の源流といわれる「佐賀藩三重津海軍所跡地」の遺構を顕在化した歴史公園からなる〔詳細は、佐野常民記念館ホームページ参照〕<http://www.saganet.ne.jp/tunetami/>

## 引用・参考文献

- 1) 西村侑香里・西村麻希・田中麻里、『地域子育て支援活動「子どもミュージアム」における取り組み－平成28年度の実践報告－』、西九州大学子ども学部紀要、第9号、135-142、2018
- 2) 大城あゆみ・西村麻希・田中麻里、『西九州大学子ども学部における子育て支援活動－「子どもミュージアム」平成25年度の活動報告－』、西九州大学子ども学部紀要、第6号、111-121、2015
- 3) 小島千恵子、『親が子育てを楽しむための子育て支援活動－現行の親子参加型活動からの検討－』、名古屋柳城短期大学研究紀要、第31号、115-127、2009
- 4) 有川一、『保護者に「遊び方」を提供することの効果』、中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究、第2巻、115-120、2017
- 5) 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治、『「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究（1）－短期大学へのアンケート調査の分析を通して－』、北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要、第1号、135-150、2008